

国境を越える特許権侵害 権利行使と防御

日時: 2024年7月16日(火) 09:00~18:00 (08:45 開場)

場所: 慶應義塾大学 三田キャンパス 北館1階ホール (裏面キャンパスマップ参照)



慶應義塾大学三田キャンパスへのアクセス:

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

言語: 日本語・英語 (同時通訳あり)

対象: どなたでもご参加可、事前登録要

参加申込: <https://forms.gle/CKPHvrDRbMrnQd5DA>



基調講演 (講演順)

大鷹 一郎 (前知的財産高等裁判所長 虎門中央法律事務所パートナー)

Prof. Dr. Peter Meier-Beck (元ドイツ連邦通常裁判所 (最高裁判所) 判事)

登壇者 (登壇順)

Prof. Dr. Heinz Goddar (Partner, BOEHMERT & BOEHMERT)

Edgar H. Haug (Chairman, HAUG PARTNERS LLP)

Sheila Mortazavi (Partner, HAUG PARTNERS LLP)

Christian W. Appelt (Partner, BOEHMERT & BOEHMERT)

笹原 真理子 (日本製鉄株式会社 知的財産部知的財産企画管理室長 知的財産部知的財産法務室
部長代理兼務)

真竹 秀樹 (キヤノン株式会社 常務執行役員 知的財産法務本部長)

守屋文彦 (Nokia Technologies, Head of Nokia Technologies Japan)

司会

一色 太郎 (一色法律事務所 外国法共同事業マネージングパートナー/慶應義塾大学 非常勤講師)

君嶋 祐子 (慶應義塾大学法学部・法学研究科教授)

主催: 慶應義塾大学知的財産フォーラム

共催: 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート(KGRI)、法学部・大学院法学研究科

プログラム(予定)

- 09:15 - 10:00 ドイツ 特許侵害訴訟における差止請求と比例原則
- 10:00 - 10:45 米国 裁判所、PTAB および ITC における訴訟の最新動向
- 11:00 - 11:30 米国 AI を対象とする特許の特許性と行使可能性、標準必須特許に基づく差止と侵害賠償
- 11:30 - 12:00 ドイツ・米国 パネルディスカッション
- 13:00 - 13:45 日本 ネットワーク型システム発明の「生産」の差止めと属地主義について
- 13:45 - 14:30 欧州・ドイツ 特許訴訟の最新動向 UPC とドイツ国内手続
- 14:45 - 15:30 欧州における特許異議と無効 —EPO 異議申立、UPC 特許無効および各国特許無効手続の相互作用
- 15:30 - 16:00 日本・欧州 パネルディスカッション
- 16:00 - 16:30 ネットワーキング コーヒーブレイク
- 16:30 - 17:45 日本から世界へ 産業界の知的財産戦略と展望 —日本、米国、ドイツ、欧州の最新動向を踏まえて—

キャンパス・マップ

